

画像工学同窓会会報

ごあいさつ

平成15・16年度画像工学同窓会会長

昭和36年卒 岩田 克彦



この度平成15・16年度画像工学同窓会会長を指名されお受けしました。私どもが入学した昭和32年当時は教養課程が稲毛校舎、専門課程が松戸校舎の時代で、教養課程で必須単位を落とすと毎週稲毛へ通わなければならない大変な苦勞でした。但し現在の様に4年で卒業できるのは6～7割という時代ではなく、そこそこ真面目に授業に出れば卒業させてもらえ、しかも就職は学生側が好きな会社を選べるよき時代でした。

実習はまだ活字の鑄造、文選植字、写真版は湿板が残っていました。その当時から考えると最近の技術進歩は非常に早く、我々アナログ時代に教育を受けた者にとってデジタル時代の技術知識にはついて行くのがやっとの思いです。

技術が進んでも写真・印刷産業(分類することが時代遅れかも知れませんが)に関わっている者にとって基本的な流れは殆ど変化していません。ただ確実にいえることは業種間の垣根がなくなって誰でも簡単に写真・印刷物が作れる様になってきました。しかし素人が簡単に事業としてやって行くにはまだまだ難しい部分がかかり残っていて、我々アナログ人間がいまだに活躍出来る場所があるのです。

若い人達はもっと同窓会に参加して先輩達の苦勞話を積極的に聞くべきだと思います。将来色々な場面で苦しい時、先輩に聞いた話が必ず役立つ時があると思います。是非時間を作って総会に参加して下さい。何か得るものがあると思います。今年の総会開催日は、画像に関連のある展示会期間中に決めました。多数の方の出席をお待ちしています。

画像工学同窓会第4回技術講演会のお知らせ

総会前の時間に下記の技術講演会を開催します。自由に語って頂ける気楽な講演会です。是非、お誘い合せの上、ご参加ください。今回は国際グラフィックアーツ総合機材展IGAS2003の開催時に同じ場所にて講演会を開催することになりました。機材展に参加と同時に技術講演会に参加いただけますようご案内申し上げます。なお、ご参加の有無を同封の振り込み用紙に記入の上送付ください。

記

日 時：2003年9月27日(土) 14:30～16:40
 テーマ：『21世紀の画像技術を語る～第3弾～』
 場 所：東京ビッグサイト会議棟701会議室
 参加費：無 料

講演(1)「ブロードバンド・コピキタスネットワーク社会の展望～いつでもどこでも～」
 日立製作所中央研究所ネットワークシステム研究部部長 三村 到(昭和59年院卒)
 高速インターネットアクセスが広く利用可能になってきました。今後は、どこでも、だれでも簡単に使えるようなコピキタスネットワーク社会の到来が予感できます。本講演では近未来のコピキタス情報化社会のイメージや技術展望をご紹介します。

講演(2)「クリティカル・ポイント・フィルタ技術利用によるデジタル・コンテンツ制作」
 (株)モリス副社長 秋吉信雄(昭和49年院卒)
 非線型数学応用Homotopy理論によるまったく新しいICG技術とそれを生かしたコンテンツを紹介する。この技術はモーフィングに似ているが全く異なる技術で、例えば、ある木の4枚の四季の写真があれば四季を通してのその木の自然な変化が再現できます。マネの絵から全然違うマネの絵に自然に変化させることもできます。

講演(3)「電子ペーパーの実現を目指して」
 千葉大学工学部情報画像工学科教授 北村孝司(昭和47年院卒)
 目に優しい薄膜表示媒体である電子ペーパーの研究開発が進んでいます。電子ペーパー技術の概要と今後の展開について述べます。

総会・懇親会のお知らせ

平成15年度の定時総会および懇親会を下記のように開催いたします。今回は多くの方に参加いただけるよう4年ごとに開催される国際グラフィックアーツ総合機材展IGAS2003の開催とあわせて総会および懇親会を開催することになりました。是非、皆様お誘い合せの上、ご出席くださいますようご案内申し上げます。

記

開催日：2003年9月27日(土)
 総 会：17:00～17:30
 議 題：平成14年度事業報告、会計報告
 平成15年度事業計画、予算案
 懇 親 会：17:30～
 場 所：東京ビッグサイト
 会議棟702会議室
 会 費：5,000円 当日お支払いください。

出席される方は、同封の振り込み用紙の出欠欄にご記入の上、9月10日(月)頃までには到着するようにお早めにお申し込みください。

東京ビッグサイト

〒135-0063 東京都江東区有明3-21-1
 交通：ゆりかもめ「国際展示場正門」駅下車
 りんかい線「国際展示場」駅下車
http://www.bigsight.jp/access/access_c/index_c.html

学科の近況 情報画像工学科

立田 光廣

コース制とカリキュラムの変更

これまでの画像工学科は、画像材料工学コースと画像システム工学コースの2コース制をとり、画像工学に関する専門教育にあたっていました。画像工学科と情報工学科が融合して情報画像工学科となった後は、情報工学コースを加えて、3コース制の学科となりました。

今年の3月には、「情報画像工学科の入学試験」を受けて入学した学生の最初の卒業式を迎えました(1年前の卒業生は、特殊事情により、「画像工学科の入学試験」を受け、情報画像工学

科の学生として卒業しました)。ここに至り、情報画像工学科のすべての学生が、情報画像分野の教育内容をバランスよく学ぶことをめざして、コースの壁をなくすことを検討中です。これによれば、どの学生も、興味のある研究を行っている教官の指導のもとでの卒業研究を、現在あるコース制の壁を超えて同じ条件で希望できることとなります。これにともない、これまでコース毎に設定されていたカリキュラムを統合し、科目を精選して、「情報」「画像」「マテリアル」を融和させた教育プログラムとすることを検討中です。

教官異動等

訃報 甘利武司先生:印刷材料工学の権威として情報画像工学科を牽引してこられた甘利先生は、昨年12月12日、60歳の若さで逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げます。

退官 田中恒雄先生:都市環境システム工学

科の設立のため移籍された後も、引き続き情報画像工学科の卒業研究生の指導にあたられていた田中先生は、本年3月末日をもって定年退官されました。

新任 堀内隆彦先生:本年4月1日付けで像変換工学教育研究分野に助教授を迎えました。

椎名達雄先生:光工学教育研究分野に、近々新しく助手として着任される予定です。新任のお二人の先生方のご活躍が期待されます。

受賞

小寺宏暉先生:像変換工学教育研究分野の小寺先生は、これまでデジタル画像システムの理論とアルゴリズムについて幅広く革新的に貢献してこられたことに対して、本年5月14日、アメリカ画像科学学会(Society for Imaging Science and Technology)からFellowの称号を授与されました。おめでとうございます。

研究室紹介 星野研究室

当研究室の構成員は、学部学生4名、大学院修士課程学生7名、大学院博士課程学生1名、および研究生1名となっています。研究のキーワードは薄膜と界面の電子プロセスであり、界面の特異な相互作用を利用して、新規な画像の形成法、界面静電気現象の解明、固体界面反応を利用した新規ナノ構造材料や新規化学プロセスの創生に取り組んでいます。

具体的には、(1)均一系あるいは不均一系触媒反応を利用して透明基板上に顔料膜の高精細画像や導電パターンを形成したり、pn有機傾斜接合・均一混合接合を形成する、(2)水や酸素といった環境物質の影響を考慮した摩擦帯電モデルを構築する、(3)有機/無機ハイブリッド接合を用いた空中素子固定反応の発見とその機構解明、(4)電池反応を利用した有機-無機ハイブリッド材料の創生、(5)ナノワイヤーの新規形成法とデバイスへの展開に取り組んでいます。いずれも画像材料の研究に端を発しています

が、上記(3)のような「情報画像らしからぬ方向」に展開したのもあります。しかしながらこのテーマは、NatureのWebサイトや、英国一般新聞The Guardian、そしてChemical & Engineering Newsに取り上げられるほど科学的な重要性が高いので、学科の諸先生方にご理解をいただいている次第です。

今後ともイメージングを中心としたマテリアル研究および教育に邁進致しますので、ご指導ご鞭撻をいただければ幸いです。

研究室紹介 尾松研究室

近年、レーザーの需要は情報通信や医学や材料加工、また、物性研究や化学合成・分析等の産業分野から理学応用まで、急速に広がっています。これまでのレーザーというと、専門家が経験を生かして精密に調整する、高価でデリケートな装置、というのが一般的な印象でしたが、最近では、知識の全くないユーザーでも簡単に使えるものへと大きく今進化しています。

本研究室では21世紀のレーザーのあり方を

考え、新時代のレーザーを生み出そうと研究を進めています。われわれが新時代のレーザーとして提供するの、

より高機能に...レーザー自身が環境変化を学習し、その環境に自らが適応させる自己組織化インテリジェントレーザー

より小型に...物質の自己組織化現象を多角的に利用したインテリジェント光ナノエレクトロニクスデバイス

よりフレキシブルに...波長可変ディスプレイブルプラスチックレーザー

です。これらの最終目標に向けて基礎から応

用研究まで幅広く研究活動を行っています。

研究のモットー

明るく楽しく研究すること。ビールと歌があれば世界中どこでも誰とでも仕事ができる。をモットーに、東京大学、筑波大学などの国内の大学から、インペリアルカレッジ(英国)、マッコーリー大学(オーストラリア)など海外の大学とも積極的に国際共同研究を行っています。また、これらの海外国際共同研究は日本学術振興会二国間共同研究に認定されています。

研究室紹介 小林(範)研究室

(1)光電機能ナノ組織体の構築と画像デバイスへの展開

DNA等構造規則性分子と導電性高分子、光触媒がナノレベルで複合された高次組織体を構築し、表示デバイスとして機能することを見いだしました。像「情報」も伝達できる生命「情報」伝達材料としての新たな活用・開発を目指しています。

(2)高電荷輸送性ポリペプチド液晶の開発と新規Imaging

剛直なバネ状主鎖構造を持つ電荷輸送ポリペプチドを液晶化し、主鎖を電場に平行に配

列することで高い移動度が発現されることを明らかにしました。また電場により透明濁り応答を繰返すため新規Imagingへの展開も図れると考えております。

(3)電気化学反応を利用した新規Imaging方式の開発

(4)特徴ある光電機能有機薄膜の作製と物性

最近の特記事項

J.Mater.Chem.誌、2001年7月号表紙に研究内容掲載されました。

日経新聞、日経産業新聞、2002年7月8日に研究内容掲載されました。

DC学生がKJF2002(仙台2002年10月22日)でBest Poster Award受賞しました。

from Editor

...編集担当から

大学便りについて

大学の話題を積極的に優先的に掲載して下さいという会員の方のご意見がありました。このご意見の「大学」という言葉は「大学全体の様子」という意味ではなく、「画像工学関係の大学内での教育と研究の現状」ということだそうです。そこで、「大学便り」では、教育という観点から、情報画像工学科(画像系)の話題を立田教授(特別会員)にお願い致しました。また、研究という観点から、最近、文部科学省関係の「中型の科学研究費補助金」などを複数獲得された3人の特別会員の先生に研究自己紹介をお願い致しました。

平成14年度卒業生修了生就職先

2003年3月に社会へ巣立った卒業生・修了生の就職先をご紹介します。本年度も厳しい状況の中、まだ多くの学生が就職活動に奮闘しております。諸先輩方の暖かいご支援をお願い致します。本年度の画像系の就職担当教官は、小寺宏暉教授・小関健一助教授です。また、来年度は森田浩教授・羽石秀昭助教授が担当の予定です。(学科事務室 Fax.043-290-3490)

工学部情報画像工学科(画像材料コース・画像システムコース)卒業生

竹田印刷、東京個別指導学院、東芝ライテック、東レ、図書印刷、福岡銀行、フジフィルムソフトウェア、エン・ジャパン、大塚商会、帆風、メタテック、リンテック、凸版印刷、日立システム&サービス、日立ビジネスソリューション、日立電子サービス、日鐵住友金属

[大学院修士課程進学先]千葉大学大学院(像科学専攻)、千葉大

学大学院(デザイン専攻)、東京工業大学大学院人間環境システム専攻、北海道大学大学院医学研究科

大学院自然科学研究科像科学専攻修了生

Gongwell翻訳事務所、NTTアドバンステクノロジー、アルパックス、アンリツ、イーピーエス、インターネット・ビジネス・ジャパン、エヌ・ティ・ティ・システム技研、キャノン、シャープ、スタンレー電気、ソニーEMCS、リコー、レンゴー、旭化成情報システム、共同印刷、大和総研、中日新聞社、凸版印刷、日本IBM、日本エル・シー・イー、日本ラッド、日本経済新聞社、日本電気、日立コミュニケーションテクノロジー、日立ハイテクノロジー、日立製作所、半導体エネルギー研究所、富士ゼロックス、富士写真フイルム、富士写真光機

[大学院博士課程進学先]千葉大学大学院博士課程

水澤伸也先生 「勲三等瑞宝章」受章、 お祝いの会が 開催されました。

大野 隆司

水澤伸也先生は平成14年11月3日秋の生存者叙勲において勲三等瑞宝章叙勲の栄に浴されました。この叙勲は先生の長年にわたる教育・研究・社会的活動等における顕著なご功績に対して与えられたものであります。

先生は昭和24年3月東京大学第二工学部応用化学科卒業、昭和27年3月同大学院前期課程修了、同年4月千葉大学助手工学部に採用され、助教授、教授を経て平成2年3月31日定年により退官され、同年4月千葉大学名誉教授の称号を受けられました。

先生に直接お教え頂いた卒業生を中心とし

たお祝いの会が平成14年12月15日、KKR HOTEL TOKYO(竹橋会館)で開催されました。昭和29年卒業の野田栄三様から平成2年卒業の生澤豊様まで60余名が出席されました。数名の卒業生から先生との思い出が話されました。先生は終始和やかに、楽しそうに皆様とお話しをされておられました。いつしか先生の周りには先生との記念写真を希望する卒業生の列ができ、先生は柔やかに愉しそうに卒業生との記念撮影に応じておられました。先生に昭和33年卒業の三位信夫様より卒業生からのお祝いの品が贈呈され、先生のますますのご健康を祈念してお祝いの会は盛会のうちに閉じとなりました。参加者は先生より受章の記念品を頂き、先生と共に受章の喜びを分かち合いました。

勲三等瑞宝章をお付けになった水澤伸也先生
(平成14年12月15日撮影)



田中恒雄先生ご退官

平成10年の工学部改組の際に画像工学科から都市環境システム学科に移動なされた田中恒雄先生は、平成14年3月にご定年となり退官されました。

先生は、38年間という長い期間、印刷工学科、画像工学科および都市環境システム学科にて教育研究に従事され、印刷画像工学とくにインキの浸透などに関する多くの研究成果を上げられました。



3月13日には画像系の教職員による送別会を行いました。

なお、先生は現在も日本印刷学会技術委員会の委員長を続けられ活躍なさっておられます。

甘利武司先生のご冥福を お祈りいたします

平成6年卒 鈴木 健司

甘利先生の訃報に際し、心よりお悔やみ申し上げます。

私は、画像工学科1期生として、卒業研究生の頃から八年間先生にご指導を賜ったうえ、その後も共同研究を通じて10年余に渡ってお世話になっておりました。学生時代はもとより、社会人となってからも、公私に渡る相談に快く乗っていただき、私にとっては非常に大きな先生でした。

先生は、研究に関して非常に厳格な方でありましたが、その一方、研究の場を離れると非

常に親しみやすい方でした。お見舞いに伺った際も、研究室の学生さんのことをとても案じておられたことを印象深く覚えております。けっして怒っておられたわけではなく、研究の進捗状況や研究内容の重要性、さらには学生さんの将来のことについてまでもご心配なさっておられている様子でした。甘利先生らしいな、と強く感銘を受けました。同時に、私自身のことまで心配して下さっていたのだなと思い、「私もご迷惑をかけたばなしでした。」と申し上げると、満面の笑顔で「でも今、立派な素晴らしい仕事をしているじゃないですか。」とおっしゃられました。こういう広い心で私たちを見て下さったのかと思い、胸が熱くなりました。このことはつい昨日のこのように覚えております。

結局、それが先生とお話する最後の機会になってしまいました。いままさながら、非常に残念に思いますが、先生のお言葉の一つ一つが私の心に残っています。これからもご教示いただいた事々を大切にして卒業生たちは頑張っていきますので、その変わらぬ広い心で、いつまでも見守っていて頂けたらと思います。合掌。



千葉大学画像工学同窓会 関西支部総会報告

昭和44年卒 滝田 進弘

7月12日土曜日、2003年度の千葉大学画像工学同窓会関西支部総会は昨年度に続いて「コンチキチン・コンチキチン」の祇園ばやしが響く

京都で開催されました。当初24名の参加エントリーでしたが27名と増加になりました。何故か若い学生連中に迎えられ不審に思いつつ会場に入ったのですが隣の部屋で立命館大学の射撃部の集まりがあったためだと判明しました。その影響でやや狭い部屋になりましたが昨年とは違って

東山に面してまた違った雰囲気でした。

東京からは中原大先輩・大野教授・中村印刷雑誌編集長が参加されました。岩田会長から前年度の会計報告があり承認されました。井下元会長の乾杯発声で宴会が開始しました。続いて大野教授から大学の状況報告がありました。昨年、参加されなかった人から京都で何故ロシア料理なのか?の質問があり「キエフ」

の社長が研究生ではありますが同窓生であることから願っている事が説明されました。余興では木下先生がロシア語で楽団とともにカチューシャを歌い会を大いに盛り上げてくれました。最後に一本締で総会は盛り上がった雰囲気の中で終了しました。

昭和44年写真工学卒同期会

昭和44年卒 外村 淳治

6月24日各講座の先生方を囲んでの同窓会が開催されました。卒業後、全体で集まることも少なく定年もそろそろ視野に入った頃ですがなんとなく集まろうということになりラボショーが開かれている期間に合わせ急遽同窓会開催を企画して連絡のとれる人のみ連絡、当時の先生方にも声をかけた結果、22人が赤坂の寿司店に集合しました。

先生方は久保・荒井先生、廣橋先生、三位先生、大野先生が参加されました。現在千葉大学に残っているのは大野先生だけで時の経過にビックリするばかりです。徐々に青春の戻ったような錯覚を覚えた、有意義な3時間でした。

卒後30年の同期会

印刷工学科 昭和45年卒 同期会

昭和45年卒 阿部 敬一

印刷工学科昭和45年卒業組も、印刷を専攻していたせいで、多くの人が印刷に関わりのある仕事に携わっています。

私もその一人で、印刷関連の展示会や、印刷業界の会合などで何人かの同期生と会うことがあります。そのうち、(株)帆風社長の犬養さんが中心になって10年程前から連絡の取れる人達数名だけでミニ同期会として年に1回ほど集まり、飲んだりゴルフを楽しんだりするようになりました。常連のメンバーは、犬養さん、私のほかに印刷技術協会の山内さん、日立インターメディックス(株)の高宮さん、(株)リコーの鈴木明さん、松本市の精美堂印刷(株)社長の倉科さんなどです。

このミニ同期会の中で、「平成12年は卒業してからちょうど30年になるので、全員に声を掛けて卒後30年の記念同期会をやらう」という事になり、成り行きで犬養さん、千葉大学教授の北村さんと私の3人で幹事をやることになりました。行事としては第1部として昼のゴルフ、第2部として

夜の同期会ということを決まり、日程も平成12年10月21日(土)に決めました。

まず、同期会の名簿を作るということで、千葉大学工学部の同窓会名簿をベースにして北村さんと私とで作成。卒業した同期生は41名いましたが、既に亡くなった坂井憲栄さんを除く40名のうち38名の消息がつかめました。養浦登美雄さんと遠藤嗣夫さんの2人だけは未だに消息がつかめていません。同期会会場などはすべて犬養さんが手配してくれ、38名全員に案内状を発送しました。

ゴルフは6名だけの参加でしたが、夜の同期会のほうは予想を上回る18名の参加申し込みがありました。遠くは京都から重光さんや愛知県から平井さんなど30年ぶりに会う懐かしい顔ぶれが集まりました。幹事役の北村さんも直前に米国出張が入ってしまいましたが、成田空港から同期会会場に直行し、参加予定者全員と綺麗どころ二人が加わり大宴会(?)が始まりました。



30年を経て、お腹の出た人、髪が薄くなった人白くなった人、ぜんぜん変わっていない人など様々でしたが、大学時代の思い出話や、それぞれの近況報告などで会も大いに盛り上がり、そして最後は2次会へと流れていきました。

その後もミニ同期会を毎年開いていますが10人程集まるような同期会になりました。卒後35年、40年...と節目の年には大勢が参加できる同期会を開き、より多くの元気な顔に再会できたらと思っています。

昭和51年卒同期会

昭和51年卒 湯本 好英



去る4月19日、昭和51年卒業の同期会を開催しました。我々の同期会としては卒業以来8回目になります。皆、髪の毛の白さが増したり、その他の変化で容貌は益々凛凛しくなって(自己申告です)おりますが、大変楽しいひとときを過ごしました。

特に今回は北村教授にたつてのお願いをし、大学での開催とし、新しい教室で最近の研究テーマや大学の近況を伺うなど、大変内容の濃いものとなりました。卒業以来、大学を訪問するのが初めてのメンバーもあり、懐かしい思い出つづ

り、また木々が大きくなったのにびっくりしておりました。

先生のご講演後、北京亭で「ニクイタメ」を注文し「肉りャンコ」の掛け声も懐かしいまま、昔ながらの味に舌鼓を打ち、西千葉・緑館での宴会にだだれ込んだ次第です。

その後は再会を期し解散となりましたが、生憎の雨にもめげず、私を含め何人かは夕々の千葉の夜を賞味すべく、懲りないクラブ活動に出発したのであります。

▶ ナノサイズ材料の進歩

近況報告

平成6年卒 海下一徳

私は、1990年に新制「画像工学科」第1期生として入学しました。この学科の志望動機は、高校の美術部で知ったシルクスクリン印刷がきっかけでした。当時は、個人がコンピュータで容易に画像作成・画像処理できるようになる一歩手前の時期でした。私は手作りの感じがする印刷方法が好きだったので、課外活動のサークル等でスクリーン印刷ポスター作りなどをしていました。

卒業研究は、画像システム工学講座の松本和雄教授の研究室に配属となり、研究テーマは、日野照純助教教授のご指導のもと、ポルフィリン色素や当時世に出て間もない炭素材料フラレン類の電子状態の研究でした。大学院(博士前期課程:像科学専攻、博士後期課程:多様性科学専攻)でもフラレン類の研究を続け、1999年に博士の学位を得ることができました。

その後、千葉大学電子光情報基盤技術研究センターや名古屋大学物質科学国際研究センターでの研究員としての勤務を経て、(株)カーボン・ナノテク・リサーチ・インスティテュート(略称:(株)CNRI、三井物産(株)出資会社)に入社し現在に至っております。

現在の主な仕事は、社名どおり、カーボンナノ材料に関する調査と物理・化学の実験ですが、安価な合成法や用途の開発についてもたずさわっています。私のたずさわっている物質が「...の像形成には、この物質が欠かせない」などと紹介されるように頑張っています。学部時代は、一般的にはその用途が不明瞭だったフラレンやナノチューブ等の物質も、昨今のIT産業発展に次ぐナノテクブームによって様々な用途が期待され、大量生産がいままさに始

まろうとしています。

今後、画像産業のみならず情報関連産業には、様々なナノ材料が大きく関わって来るはずで、それは、情報記録の超高集積化のためにはサイズダウンが必要条件なことと、軽量化のためにはカーボン材料が有効なことが主な理由です。ソフト面からの発展もこれまでどおりあるとは思いますが、材料面からの進歩がなければブレイクスルーは望めません。

同窓生の皆様には、フラレンなどを含めた新規のナノサイズ材料の今後に着目していただければ幸いです。

▶ 想像していた仕事と実際の仕事

近況報告

平成11年卒 深井 修次

就職して2年が過ぎ、早くも入社3年目に突入しました。この2年間を振り返って、あっという間に過ぎた気がします。

入社して、はじめのころは、就職する前に自分が想像していた仕事と実際の仕事との違いに戸惑っているうちに過ぎて行きました。就職する前、自分は研究開発をしたいということで就職しました。しかし、実際の仕事は研究開発だけというわけではなく、それ以外に様々なことをしなければならないことを知りました。

例えば、この春は、新人研修の技術に関する授業の講師をすることになりました。まだ、教えるほど理解できている訳ではない内容を新入社員に説明しなければならなくなりとても困りました。入社後、いかに勉強が足りなかったかを実感しました。ただ、このことで理解が深まったことは良かったと思います。

今は入社3年目になり、ようやく会社に仕事に慣れてきて、仕事の楽しさが分かってきたような気がします。これからも(これからは?) 充

と勉強をして色々経験を、少しでも世の中や会社のためになる研究開発が出来たら、と思っています。

なんか、話にまとまりが無い変な文章になってしまいましたが...以上、近況報告でした。

▶ 電子写真ってたいへんなんです

近況報告

平成11年卒 今井 良枝

大学院を修了して、早や2年が経ちました。現在、私は東芝研究開発センターで、液体トナー電子写真の事業化を目指して装置を試作・研究しています。

研究部門で比較的少人数で装置を作る、というのは考えていたよりも大変なことで、材料からプロセス、機械、電気電子と様々な分野の専門家が集まって力を発揮しています。

そんな中、私は装置の画像処理部分を担当しているのですが、画像処理だけを研究・実装するというわけでもなく、様々なことを教えていただいています。また、様々な分野の専門家が集まって、ということは、一つの専門分野あたりの人数は少なく、部署には画像処理の専門の方がほとんどいません。

とはいえ、私は、画像処理といってもデジタル画像処理の研究ばかりでしたので、ハードコピーの知識が乏しく、電子写真の知識も合わせ、大学のときにどうしてもっと勉強しなかったのかと後悔の連続です。

ともあれ、千葉大学の画像工学の出身というだけで、学会や関連会社に行っても通りがよく、大変助かっています。そして、千葉大の画像の名に恥じない研究者になれればと思う、今日この頃です。同窓の皆様には折にふれお世話になることがあると思いますので、ご指導よろしく願いいたします。

(株)印刷学会出版部で『印刷雑誌』の編集をしている中村です。同窓生あつての私の仕事を紹介します。大々先輩である当社社長の山本隆太郎に読んでもらったら「呑む話ばかりじゃねーか!」と言われてしまいました。笑ってお許しください。

Nakamura's
Yearly
Diary

先輩、後輩あつての仕事?

平成2年卒 中村 幹

vol. 5

2002年9月昼

日本橋を歩いていたら 偶然同期の沼倉雅則に会う。先日、同窓会名簿の作成で行方不明の同期の所在確認の依頼を彼にメールしたら、すぐに知っている範囲で対応してくれた。

感謝。私の代は銀行などほとんど印刷と関係ない企業に就職したものが多いのです。みんな元気ですか?

12月夜

甘利先生がお亡くなりになり、前夜祭に行く。同期で甘利研だった 朝倉剛 飯島勝美、石井和久、石井智之、川合一成に13年ぶりに再開する。みんなおじさんどころか、すごくかっこよくなっていた。とても懐かしかった。不謹慎かもしれないが 学校の先生のおかげで、懐かしさに浸れることができた。

2003年2月夜

CD勉強会で、朝日新聞に入社した後輩の佐方麻希子さんが参加してくれた。

4月夜

CD勉強会で、後輩の宮脇修三くん(今ごろは四国の実家の写真屋さんを継いでいるらしい)がそのまた後輩の阪尾康史くんを連れてきてくれた。また6月には宮脇くんと同期の鍋谷依子さんも連れてきてくれた。後輩が同期や後輩を連れてくる。ありがたいことです。

6月昼

福島の日進堂印刷所の佐久間信幸専務の

ところ取材に行く。8年も前に一度取材に行き、その時は夜にたくさんご馳走になった。今回は、昼間の時間になってしまったため、一緒に呑めず残念。

6月夜

今日は仙台出張。後輩の小幡秀樹さんと呑む。彼はユーメディアという仙台で老舗の印刷会社に入社し、今は品質管理でがんばっている。

たびたび

おそらく本会報の西部支部の原稿はメディアアテックノロジー・ジャパンの滝田進弘先輩が書かれているのではないと思う。西部支部の会を訪れたときは、いつも幹事役で良くしていただき 私は精神的に心強かった。最近では京都から東京の勤務になられたそうで、ちょくちょくお世話になるようになった。同様に日本印刷学会の中部支部の取材などで名古屋を訪れたときは、大日本スクリーン製造の永田巖先輩がいてありがたかった。地方や知らない人ばかりの会合に出るときに、先輩がいると、これほど安心することはないんですね。

(来年へつづく)

芝葉印刷学部会資産を 画像工学同窓会に寄贈する件

画像工学同窓会監事 正田 章

1996年9月に画像工学同窓会が設立され、その下部組織として千葉大学工芸写真会と芝葉印刷学部会が存続してきました。この間、画像工学同窓会は毎年総会・技術講演会・懇親会・新卒者を励ます会等活動してきましたが、芝葉印刷学部会としての独自の活動は出来ずに今

芝葉印刷学部会資産

定期預金	3,000,000円
普通預金	600,562円
現金	29,575円
合計	3,630,137円

日にいたりしました。今後も新入会者がいない等を考慮しますと独自活動は難しいと判断し、歴代の松島会長・古賀会長から引き継いだ芝葉印刷学部会資産を有効活用する事を考え、画

像工学同窓会に寄贈することを平成15年5月13日の幹事会に提案し、了承されましたので芝葉印刷学部会の会員の皆様にご報告いたします。

この件でご意見等がございましたら平成15年度総会までに正田宛にFAX又は電子メールでお願いいたします。

正田章連絡先

FAX 03-3572-2633

✉ akira_shoda@ffgs.co.jp

世代を超えた勉強会

平成2年卒 中村 幹

現在、諸先輩方とともに、CD勉強会を行っています。月1回(8月と12月は休み)、印刷関係の一般教養や最新動向をテーマに、同窓会のメンバー中心に十数人が集まって講師の話を聞きその後質疑・討論しています。

CD勉強会とは、千葉大学工業短期大学部印刷科の先生方、卒業生、在校生が資金を出しあって、神田にオープンさせた、喫茶店プリンティア「泉」での定期会合が発祥と聞いています。一方的な講演、説明ではなく、討論を主体としていたということで、毎回、熱弁が交わされていたそうです。内輪ではあるかもしれませんが、ク

ロードではなく、来るもの拒まず(代わりに去るものも追わず)の、あくまで自覚的、自主的な気概をもった士が集まる手弁当の会合です(現在参加費1,000円)。この辺の件は、タイポロジーの竹原悟さんやイーピーシーの松浦広さん、日本アグファ・ゲバルトの草柳孝之さんから聞きました。

学外の方から、よく「CD」って何?と聞かれるのですが、Chiba-Daigakuのことだそうです。

6月は、五百旗頭 忠男さんから水なし印刷の話を書きましたが、いつもの倍くらいの参加人数になり、先輩方の集客力の強さには敬服する時が多いです。また、これまでは私の先輩、大先輩がほとんどだったのですが最近では後輩が少しずつ増えてきておりまして、さらに20歳

代もちらほらといたりして、われわれ同窓生の層の厚さを感じます。

私は、ハイデルベルグ・ジャパンの一柳茂樹さんからCD勉強会の存在を聞き、8年ほど前から顔を出すようになりました。仕事柄、いろいろな方と出会えるので、現在は事務局のような形で参加させていただいております。毎月、講師の方を決めたり会場を手配したりとたいへんですが、結構楽しんでやらせてもらっています。現在、毎月メールで案内させていただいておりますので、ご興味のある方は、メールいただけましたら幸いです。

中村幹メールアドレス

✉ naka@japanprinter.co.jp

工学部祭での催し

毎年11月のはじめに千葉大祭が開催されています。工学部では工学部祭が行われています。

平成14年度は第40回という節目と、学部長の積極的な呼びかけもあって、多数の展示が行われましたが、画像工学関係では、「ホログラフィー・ワークショップ」「新聞写真展示とその評価」「食品を彩る印刷」の3つの催しが行われました。

「ホログラフィー・ワークショップ」は、10年前から継続されているもので、今や工学部祭の目玉的存在となっています。最近ではこれを楽しみに大学を訪れる近隣の方も少なくありません。初期には、1・2年生が初めて作製したホログラ

ムや内外の著名アーティストによる芸術的作品を展示する傍ら、ワークショップを行っていました。理学部サイエンスプラザナードでのホログラム常設展示開始後は、工学部祭ではワークショップを主体として、小学生からご年配の方々までじっくりと体験して頂けるようになり、参加者からは大変喜ばれています。

「新聞写真展示とその評価」は、同じ写真が掲載されている各社の紙面を取り寄せ比較評価するものです。2000年は「五輪女子マラソンのゴールシーン」、昨年は「ワールドカップでの口ナウド」の紙面などがとりあげられました。品質向上の一助になればと、来場者によるアンケート調査の結果は、紙面をご提供下さった各社に報告されています。

「食品を彩る印刷」では、食品の包装材の印刷について説明されました。関東グラフィア協同組合様のご協力のもと、切断前のロール状態の印刷済軟包装材と実際の商品が並べて展示されました。来場された一般消費者による「印刷品質と納入基準」に関するアンケートの結果は、日本印刷学会技術委員会の研究例会で説明される予定です。

以上のような展示には、宣伝をしなくてもなぜか毎年、卒業生の皆様がなんとなくご来場下さり、ちょっとしたミニ同窓会の場にもなりつつあります。11月は行楽の季節ですが、チャンスがありましたら、変わりつつある大学の風景をご覧がてら、大学に足を運んで下さいますようお願いいたします。

from Editor

...編集担当から

「会員便り」の原稿募集

「千葉大学・画像工学同窓会会報」は6号となりました。次号も来年、次回の総会約1ヶ月前に発行予定です。本会報では次号の発行に向けて、皆様からの原稿を募集しております。会員の皆様の同期会や近況報告、職場での集まりなどの様子を誌面の許す限り掲載していきたいと思っております。下記宛先まで、お名前、卒業年をご明記の上、お送りください。多数のご投稿お待ちしております。なお、お送りいただいた原稿・写真等は返却できませんので、予めご了承ください。また、掲載につきましては、編集担当にご一任くださいますようお願い申し上げます。

千葉大学画像工学同窓会

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 千葉大学工学部情報画像工学科内

TEL&FAX 043-290-3479 幹事長:北村

✉ 0001@faculty.chiba-u.jp 編集担当:岩崎

画像工学同窓会ホームページ

<http://image.tp.chiba-u.ac.jp/alumni/>



同窓会からのお知らせ

2002年度(平成14年度)事業報告

1. 総会・懇親会

平成14年10月25日(金)午後6時からKKRホテル東京11階朱鷺の間において豊田副幹事長の司会で開催されました。

総会は、日比野会長の開会の挨拶の後、会長を議長に議事が行われました。

- (1)平成13年度の事業報告(大野幹事長)・会計報告(矢口幹事) (内容は会報5号に掲載済)の説明・質疑とその承認
- (2)平成13年度会計監査報告(正田会計監査)とその承認
- (3)平成14年度事業計画(大野幹事長)・予算案(矢口幹事)の説明・質疑とその承認
- (4)平成15・16年度の役員案(大野幹事長)の説明とその承認 (平成15・16年度役員名簿については本号に別掲)

日比野会長の総会閉会宣言に引き続き、懇親会が行われました。久保顧問による乾杯の後、岩田次期会長の中締めまで歓談が行われました。

2. 会報の発行

定時総会の案内を兼ね、平成14年9月に第5号を発行した。

3. 関西支部総会の開催

平成14年7月13日(土)午後6時より、京都のロシア料理「キエフ」で開催されました。(この様子は、会報第5号に掲載済です。)

4. 幹事会の開催

活動運営を行うにあたって、必要に応じ、電子メールで検討しました。

5. 卒業生を励ます会の共催

平成15年3月24日(月)、卒業式の後、千葉大学学生会館において、情報画像工学科画像系との共催で、日比野会長出席のもと、就職担当の小林範久助教授の司会で行われました。

5. 卒業生を励ます会の共催

平成16年3月23日(火) 千葉大学学生会館(予定) 情報画像工学科画像系との共催

画像工学同窓会 2002年度(平成14年度)会計報告

(平成14年4月1日～平成15年3月31日)

収入の部

内 訳	決 算
前年度繰越金	8,824,180
総会会費	130,000
工学部同窓会より活動費	110,000
年会費・寄付	1,057,000
利 息	1,206
小 計	1,298,206
合 計	10,122,386

支出の部

内 訳	決 算
委員会費	30,000
新卒者を励ます会	170,000
総会経費	227,955
通信費	567,286
会誌編集発行費	208,436
活動費	111,000
支部活動推進費	100,000
雑 費	294
慶弔費	14,175
小 計	1,429,146
次年度繰越金	8,693,240
合 計	10,122,386

次年度繰越金(平成14年度残高)内訳

定期預金(千葉銀行)	7,000,000
普通預金(千葉銀行)	619,411
郵便振替	978,730
現 金	95,099
合 計	8,693,240

2003年度(平成15年度)事業計画案 幹事会:平成15年5月13日(火)

1. 定時総会および懇親会の開催

平成15年9月27日(土) 定時総会としては第7回 東京ビックサイト・IGAS2003会場内

2. 技術講演会の開催

総会の前に開催する計画。第4回。

3. 会報の発行

第6号の発行。8月の予定。

4. 関西支部総会・懇親会の開催

平成15年7月12日(土) 京都、ロシア料理「キエフ」

役員名簿

任期 = 平成15年4月1日～平成17年3月31日

()内は卒業年

会 長	岩田 克彦 (昭和36年) 大同印刷(株)会長	幹 事 席	= 責任者 新納由美子 (昭和40年) 横沢 佑治 (昭和41年) 星野 和夫 (昭和47年) 斉藤 了一 (昭和58年) 中村佐紀子 (特別)	顧 問	井下 廣 (昭和15年) 角田 隆弘 (昭和15年) 山本隆太郎 (昭和18年) 江越 壽雄 (昭和22年) 渡辺 一平 (昭和24年) 久保 走一 (昭和26年) 山司 康男 (昭和29年) 古賀健一郎 (昭和29年) 野田 栄三 (昭和29年) 藤田 亘 (昭和30年) 松本 和雄 (昭和30年) 三位 信夫 (昭和33年) 土屋 元彦 (昭和33年) 古矢 泰一 (昭和33年) 山田 溪 (昭和33年) 高橋 恭介 (昭和34年) 吉村 実 (昭和35年) 田中 恒雄 (昭和36年) 日比野繁雄 (昭和39年)
副会長	山岡 亞夫 (昭和37年) 千葉大学教授 前原 東二 (昭和47年) 公認会計士前原事務所所長	会 計	大野 隆司 (昭和40年) 矢口 博久 (昭和49年)		
幹事長	北村 孝司 (昭和45年)	編 集	湯本 好英 (昭和51年) 岩崎弥平次 (昭和55年) 岩崎賢太郎 (昭和63年) 中村 幹 (平成02年) 柴 史之 (平成05年) 海野 元弘 (平成06年)		
副幹事長	豊田 芳州 (昭和40年) 犬飼 俊輔 (昭和45年) 小林 裕幸 (昭和47年)	名簿管理	相良 頼巳 (昭和39年) 小関 健一 (昭和48年) 青木 直和 (昭和50年)		
会計監査	正田 章 (昭和39年) 大沢 慎一 (昭和41年)	関西支部	戸田 文夫 (昭和41年) 滝田 進弘 (昭和44年) 花畑 雅之 (昭和51年)		

同窓会からのお知らせ

平成14年度に、下記の皆様よりご寄付を戴きました。厚く御礼申し上げます。

【10口】柏村寿一(昭和30年)・小川圭一(昭和33年)・丹羽喜郎(昭和37年)

【9口】永谷宗次(昭和22年)・正田章(昭和39年)

【5口】三浦英徳(昭和39年)・大野隆司(昭和40年)・宮川澄夫(昭和57年)

【4口】井下広(昭和15年)・一里山泰造(昭和20年)・栗原一成(昭和24年)・山司康雄(昭和29年)・長谷川泰政(昭和30年)・大野信(昭和37年)・木村太郎(昭和42年)・内田忠伸(昭和43年)・平野幸和(昭和58年)・村田靖彦(平成9年)・

【3口】日高芳典(昭和24年)・高田康二(昭和30年)・山田溪(昭和33年)・森島毅(昭和35年)・今城力夫(昭和36年)・沼野博文(昭和39年)・金田知加夫(昭和50年)・平賀祐二(昭和55年)・岩崎賢太郎(平成2年)・貫井義昭(平成3年)

【2口】久保宏子(特別)・大塚幹雄(昭和5年)・戸村久義(昭和16年)・中原雄太郎(昭和16年)・根本鋭雄(昭和16年)・江越壽雄(昭和22年)・鈴木元治(昭和22年)・鈴木俊男(昭和23年)・奥貫信(昭和24年)・飯田均(昭和25年)・小貫秀雄(昭和25年)・亀岡勇(昭和25年)・久保走一(昭和26年)・須長祥浩(昭和26年)・関根慶治郎(昭和26年)・佐久間悌(昭和29年)・梅原剛(昭和30年)・藤沢次(昭和31年)・岩瀬一美(昭和32年)・清水伸一(昭和32年)・土屋元彦(昭和33年)・三位信夫(昭和33年)・小野正和(昭和34年)・柿崎謙介(昭和35年)・市川勝道(昭和36年)・岩田克彦(昭和36年)・中川英文(昭和38年)・荻戸進(昭和38年)・日比野繁雄(昭和39年)・渡辺惇(昭和39年)・富沢彰一(昭和40年)・坂本洸二(昭和41年)・山崎孝(昭和41年)・神本喜之(昭和41年)・滝島武夫(昭和42年)・半田隆治(昭和42年)・大久保孝雄(昭和42年)・熊坂建吾(昭和42年)・滝島健治(昭和42年)・照井與泰(昭和44年)・高梨幸雄(昭和45年)・原口米夫(昭和46年)・池田正雄(昭和48年)・小川春雄(昭和48年)・斉藤誠(昭和48年)・佐藤晴邦(昭和48年)・鈴木進(昭和49年)・山本真理(昭和50年)・足立俊和(昭和54年)・芝木儀夫(昭和54年)・岡本実(昭和56年)・浅井禎和(昭和57年)・石谷優典(昭和57年)・岩崎弥平次(昭和57年)・石部光昭(昭和58年)・橘川千里(昭和58年)・菊井伸介(昭和59年)

【1口】広橋亮(特別)・水澤伸也(特別)・宮武敏夫(昭和6年)・生三信雄(昭和11年)・松原鋭彦(昭和12年)・相原次郎(昭和16年)・土方英彦(昭和17年)・老川元薫(昭和20年)・土田俊一郎(昭和22年)・蛭海進(昭和22年)・木村功(昭和24年)・中村正一(昭和24年)・川又健一(昭和25年)・岡田貢(昭和26年)・當間章雄(昭和26年)・原誠(昭和26年)・野本拓夫(昭和26年)・接待健一(昭和28年)・小松康世(昭和29年)・金子実(昭和29年)・北村維敏(昭和29年)・竹原悟(昭和29年)・鈴木洋(昭和30年)・武田市太郎(昭和30年)・岩井實(昭和30年)・野本林(昭和30年)・設楽清(昭和32年)・鈴木章方(昭和32年)・蛭原富司也(昭和32年)・高柳英麿(昭和33年)・木城茂雄(昭和33年)・平本泰章(昭和33年)・会田源吾(昭和34年)・安藤邦郎(昭和34年)・境野誠哉(昭和34年)・深津和彦(昭和34年)・吉田昌義(昭和34年)・伊藤尹一(昭和35年)・熱田利一(昭和35年)・小池秀人(昭和35年)・内田浩二(昭和36年)・小林恒典(昭和36年)・田邊功(昭和36年)・宗像力兄(昭和36年)・高橋登志雄(昭和36年)・高橋敏彦(昭和36年)・田口英明(昭和36年)・堀越征一(昭和36年)・青木節夫(昭和36年)・家木健至(昭和37年)・橋本博(昭和37年)・亀岡正(昭和37年)・三村一俊(昭和38年)・川口勇(昭和39年)・豊田芳州(昭和40年)・山本昌平(昭和40年)・広井敏男(昭和41年)・菅原大作(昭和41年)・片岡亨(昭和41年)・久保田豪(昭和41年)・堀越仁(昭和41年)・斉藤光範(昭和42年)・白石朗(昭和42年)・炭谷武(昭和42年)・高橋寿昭(昭和42年)・緑川洋行(昭和42年)・北島徹(昭和43年)・中土昭理(昭和43年)・桐原有一(昭和43年)・土屋宜司(昭和43年)・程谷隆(昭和43年)・森田克己(昭和43年)・青木隆男(昭和44年)・中津井久(昭和44年)・玉井正義(昭和44年)・碓洋二(昭和45年)・斉藤延夫(昭和45年)・広瀬祐三(昭和45年)・鈴木武夫(昭和45年)・白鳥真太郎(昭和46年)・岩本日出生(昭和46年)・塚越初雄(昭和47年)・寺沢賢一(昭和47年)・島博昭(昭和48年)・伊東郁男(昭和48年)・定田明(昭和48年)・加藤信行(昭和49年)・森田章嗣(昭和49年)・伊藤文夫(昭和49年)・野崎和夫(昭和49年)・足立純一(昭和50年)・下川原厚男(昭和51年)・古屋幸一郎(昭和51年)・征矢明彦(昭和52年)・奥村信悟(昭和52年)・金子徹(昭和52年)・村上博高(昭和52年)・小田透(昭和53年)・小出哲司(昭和53年)・吉岡正臣(昭和53年)・末光尚志(昭和53年)・奥村正志(昭和53年)・川島誠(昭和53年)・平林俊樹(昭和55年)・渡辺幸保(昭和55年)・茂田一郎(昭和56年)・鈴木敦(昭和56年)・谷本啓介(昭和56年)・若山裕康(昭和56年)・緒方俊文(昭和57年)・村上佳久(昭和57年)・川上晴子(昭和59年)・中澤克紀(昭和59年)・宮田弘幸(昭和59年)・厚見透(昭和59年)・西川悟(昭和59年)・杉本裕之(昭和59年)・石井啓友(昭和60年)・小宅光行(昭和60年)・寺西英司(昭和61年)・福元正俊(昭和62年)・丸山美恵子(昭和62年)・貞国元志(昭和63年)・永田智久(昭和63年)・永田ひとみ(昭和63年)・大野幸治(平成2年)・塚越俊二(平成2年)・中村幹(平成2年)・浜田聡(平成3年)・板井泰弘(平成5年)・日比野哲也(平成6年)・草野敦志(平成8年)・鈴木慎也(平成8年)・金木真人(平成8年)・大井宏友(平成9年)・松永直之(平成9年)・長岡亜希(平成10年)・西川晶子(平成10年)・橋本昌樹(平成10年)・北川航(平成12年)・近藤宏治(平成12年)・水野達也(平成12年)・梶谷美保(平成13年)・若麻績一毅(平成13年)

敬称略、()は卒業年。

卒業生を励ます会

情報画像工学科画像材料コース・画像システムコースを平成16年3月に卒業する学生を囲み、懇談会を行う予定です。情報画像工学科画像系と画像工学会の共催で、卒業式(学位授与式)の終了後に行います。皆様是非ご参加下さいますようお願い致します。

予定日時：平成16年3月23日(火)

午後2時頃

予定場所：千葉大学学生会館

年会費納入のお願い

会報発行などの同窓会の活動運営は、主に会員の皆様からの年会費でまかなわれております。正会員の皆様には、同封の振込用紙にて年会費(1,000円)を納入下さいますようお願い申し上げます。

なお、情報画像工学科卒業生(平成14年3月および平成15年3月の卒業生)には、在籍時の所属コースに関係なく、卒業生全員に送付いたしております。年会費の納入にご協力下さいますようお願い申し上げます。